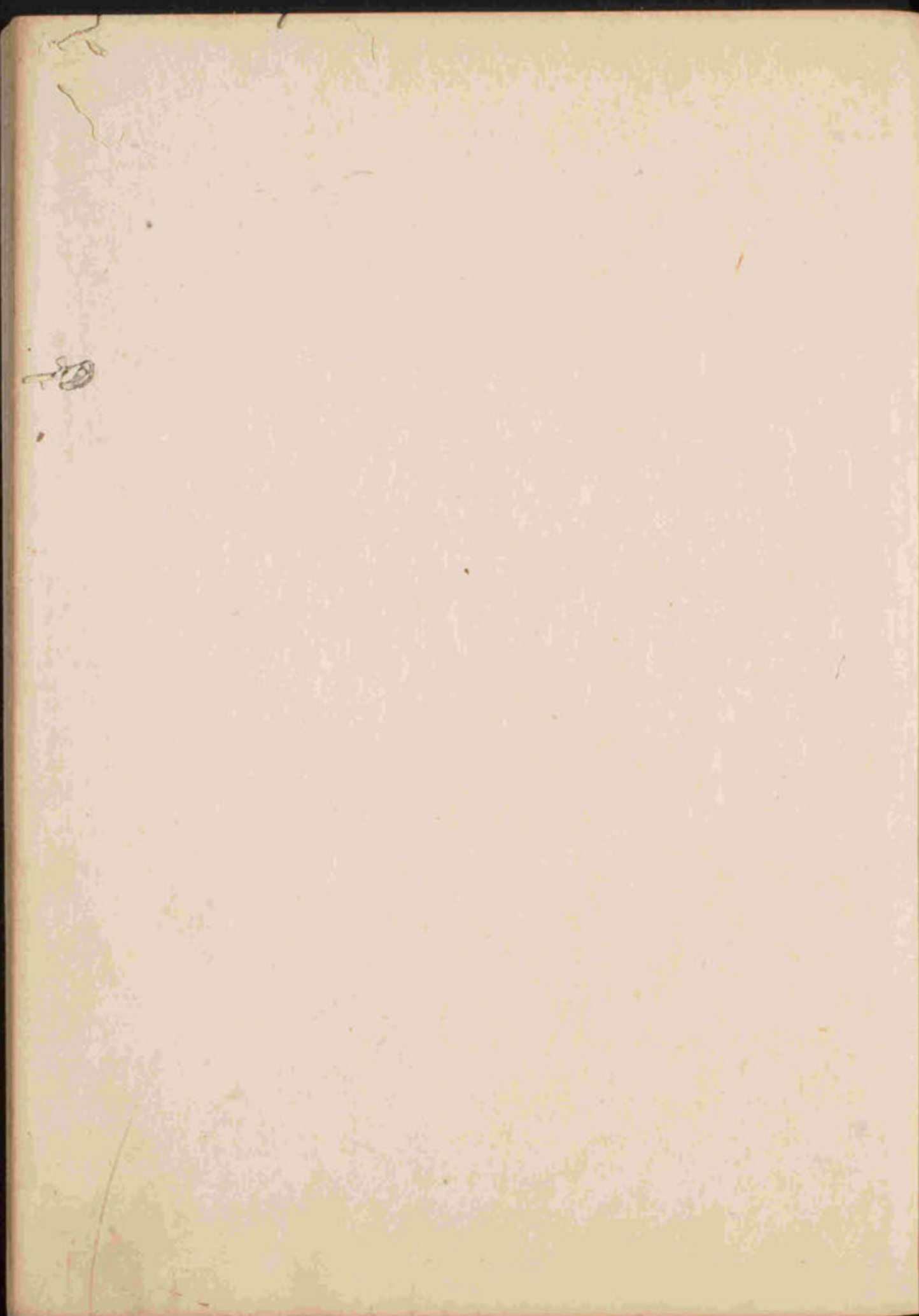


文庫

七八

夏一夏二



Handwritten text, possibly a name or title, at the top of the page.

Handwritten text, possibly a name or title, below the first line.

Handwritten text, possibly a name or title, in the middle of the page.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, below the previous line.

Handwritten text, possibly a name or title, below the previous line.

Handwritten text, possibly a name or title, below the previous line.

Handwritten text, possibly a name or title, below the previous line.

Handwritten text, possibly a name or title, below the previous line.

Handwritten text, possibly a name or title, at the bottom of the page.

Handwritten text, possibly a name or title, in the middle of the page.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, below the middle section.

Handwritten text, possibly a name or title, at the bottom of the page.

草木部一

夏部一

題

更衣

首夏

餘花

新樹

卯花

神冬祭

菱菜

加茂菜祭

早苗

五月五日

菖蒲

橘橘

花柑子

△あはれいぶら

草木部一

夏部一

題

更衣

首夏

餘花

新樹

卯花

神冬祭

菱菜

加茂菜祭

早苗

五月五日

菖蒲

橘橘

花柑子

△あはれいぶら

更衣

久安百首

なほくまは衣入くくふらのふきくもはかたき

一字百首更衣

前中納言定家

程をくくもはかたきくもはかたきくもはかたき

正治二年百首

慈鎮和尚

美のさねとあまのさねとあまのさねとあまのさね

山集更衣

後京極格政

さくひあはれいぶらとあまのさねとあまのさねとあまのさね

六帖題名更衣

中務卿下

守心集更衣とあまのさねとあまのさねとあまのさね

建長元年百首更衣

正三位忠朝



入
入
あきなりき花の衣のうらふし加らるる神のまじり

六帖題更衣

信玄朝信

新
美の夜もさるし衣のまじりまじりまじりまじり

寶治二年古着首衣

同

ふしやまのまじりまじりまじりまじり

更衣

後人不知

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

為家古着首衣

後二信家信

たの色のうらふしまじりまじり

栞印新信古着首衣

後九条内大臣

七又衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

文應元年七社古着

氏部為家

神のまじりまじりまじりまじり

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

貞應三年古着更衣

まじりまじりまじりまじり

建長三年毎日一首中

甲のまじりまじりまじりまじり

堀河後法時古着

権僧正永保

やまのまじりまじりまじりまじり

百着古着首衣

権僧正源信

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

田舎更衣

後村公

衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

首夏

天慶五年亭子院は屏風

貫之

花よりともなひまじらひいじらぬ海よのまじらぬ女は
家集夏三の中

好忠

まじらすこきよしむらぬのふらぬまじらすまじらす
夏活三の中

花山院は製

夏

春のいまはまじらぬわらぬ心はまじらす
天長三年二月貫之の言合初夏

後人

つらとるはまじらぬわらぬ心はまじらす
家集首夏の中

徳伴正

むらむらわらぬ心はまじらす
久安百首

前大納言隆幸

わらぬ心はまじらぬわらぬ心はまじらす
月

前系藤教長

まじらすまじらす
五月一日美休心

系藤為相

まじらすまじらす
月

為實

色もまじらす
蜀山入道攝政公百首

氏部為家

極衣はまじらす
春はまじらす

日影はまじらす
春はまじらす
はまじらす
はまじらす

Chilodan
月

建保三年右京百首 前中納言定家

大井河かくらぬ井せればあまのきこふ友さよふりて衣はせり

老若五十首百合 後京極権成

きれまきしすう物とほのくまのあてわらけ友のあけ

正治二年百首 同

友さあといふくらもあわぬ心とくろくらの衣かあえん

友高の中 実成重保

いさよこれかきん乃衣ぬきてくまをよすしきわ

百首百首百首友 後九条内大臣

友人乃神はさあもさあてくまをよすしきわ

建長八年百首百首合友高

後二位行家

〇坊主忠孝
春切らば
山かたし
ふか
ふか

〇方平
宮人乃其
都其呂毛

〇朗詠
階底蒲葎
本夏用藤氏

〇神まがくらのひくらしきまもはてあつらひ月録

日 たい中將具茂

けさのあまよとてうらひのひりきれらあてひ

六帖題さし 持僧正公朝

ちれはよあさきとあまを友さよふりてあつらひ

家集首友 前民部卿雅有

懐神よへまこよまあわぬ此花の乱あもも神をす

寶治二年百首首友 廿四内侍

いふふとふらりあつよまてくまをよすしきわ

千五百首百合 律書法師

時多ふまはかきん乃衣ぬきてくまをよすしきわ

伴昌政百十七字 建長三年 前中納言定家

夏子の地よ夏の夕霞いづるもふらふらと

文治三年百首

同イ

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

建保三年百首

同イ

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

百首八首韻三

同イ

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

支那筆と入る格致の百首首夏

を

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

正治三年百首四首

後多野院法製

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

○餘記

百首清奇

順徳院法製

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

寶治三年百首首夏 後九条内大臣

まゝ

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

建長八年百首三合夏奇

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

家集心餘記

市氏部心雅有

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

百首清奇

慈鎮和尚

あふとなくとらふしきそとてあはれしきふゆ

を

善少き好むるの事なり此と云はれども又さういふ所の事なり

曰

隆信卿也

早はけさしれはれはれをさういふ事なり此の事なり
家集方の事なり此の事なり

為邦卿也

老子けらにの事いさひこころさういふ事なり

○卯花

百着法号

慈鎮和尚

心よりんを極く枝よ書とれくはれりまはれり

老若五十着法号

後京極格也

里人なり此花の事なり此の事なり

建長元年百着卯花

後九条内春

心よりんを極く枝よ書とれくはれりまはれり

曰

後二位行家也

予ちあてられたるの事なり此の事なり

家集水邊卯花

西行上人

立田の事なり此の事なり此の事なり

正治二年百着

前大納言良也

心よりんを極く枝よ書とれくはれりまはれり

文永三年百着

後二位行家也

龍岡の事なり此の事なり此の事なり

○本
心よりんを極く
全書はあつた
山形はあつた

弘安百首

前大納言資季

たのほとけ好むの卯也は行くも里人志る人の月也は建

心作三首

三条入道大太

あいつのやまあむしよもは衣とくは花きよ月もさく

久安百首

花園大僧中興

卯也のまゝまゝとくは花もは垣柱之輝の衣も

千五百番の合

本寺の内太

神もつゝ卯月もまきくの花も優神之輝の衣も

月

法橋頭昭

わき衣のすゝとこれ志る人の卯也もさけらあまの神

堀川院法時百首卯也

中納言四信

卯也さうりなるらん志る人のわらもまきく人の

月

後撰抄

これも神のいひあまの心もさけらあまの神

月

権僧正永縁

少もさけらあまの心もさけらあまの神

家集三百首中 心忠

権神のいひあまの心もさけらあまの神

ふき来てこらあまの心もさけらあまの神

延長十三年二月亭子院の合

讀人之志

卯也乃さけらあまの心もさけらあまの神

家集夏夏寺

大宰大貳高遠

公孫也
ふきは
桐

心忠

心忠

心忠

心忠

白雲のたけふ井ろやの恒祐とをまゝまゝにけらわの
也

月

源仲正

やまゝの清涼の心よのこゝに後言の心よのこゝに
天仁大尊會寺
有原正家抄本
也

家集

心三信知家抄

中世の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
後人不記

中世

後人不記

禁
心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
也

家集

鴨長明

心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
素之法師

家集

素之法師

心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
也

月

心三信知家抄

心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
祐威法師

題不知

祐威法師

心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
也

家集

後醍醐天皇

心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
也

教本元

心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
也

前中納言匡房抄

心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の心三信知の
也

心三信知百首

前中納言隆房抄

八分書と書くは神と云ふは此の書に於ては

同 心三位孝経也

家集或本屏月村上山時合

慈威

永観元年一条大納言也後子云の鏡山

元補

又安百首 前奉職就隆

中水やうそひうもれさきし作さう三折物と云

明聖

ひまもくもあきしるもいもゆるもあまらふもいふも一抄記

家集印記也

後撰御札

卯花の巻にほろこよしと云ふは

六帖題しゆり

衣笠内大臣

白あしの垣抄よしけう印もいふてなされらるは

父附来あやしくいふはけしむも印記けららる

祇園社百首

花下くかげもあまふつま本はらうはけの印

古津の内大臣家との合 前中納言定家也

いふはあまらるるはあまらるるはあまらるるは

伏見の夜 伏見の夜 伏見の夜

伏見の夜 伏見の夜 伏見の夜

久安百首

大炊百首

卯のたれにめしめしんまはほあまはまきく河のいそひなり

永久言の言月を時殿奇合

季通朝片

みてもとて人一をけせし卯也ぬけける垣絲や白のき用

奇奇中

平經正朝片

まはら河きく卯也たらし時いそあまもなりそは

六帖題の奇卯花

中務の卯：物全

まの卯の月もやと卯をまうか授り時く甲まらり卯

長治二の七日奇合 法人不知

卯花のさけし日る也とほ山霧の甲まらり卯

思屋入る橋及び奇百首思卯花

氏越為家

毛源のふゆまはくたならきて冬よらうすけり卯

天仁三言月時奇家奇合

池頭國朝片

卯也のさけあまはく甲まらり神てもさあけは

為忠朝片奇三河國若奇奇合衣里

数原忠隆

白のつぼみをさきとく此花の衣乃はまらり

長多院入道二言朝片奇五十首

法橋頭昭

志之所向花をまらり卯や

建長八年百首奇合

後九条内大臣

松原雅志
おもしろけり
まはら河
卯のたれ
かき

水母能阿... 所時... 合印花...
也

後人不記

久之乃... 永之乃...
新子夏

氏部... 為家

ひ... 永之乃... 合印也

大京大文頭捕

朝日... 朝日...
新子夏

百首

年終

印也... 印也... 印也...

弘名百首印花

常盤井入道太政大臣

布... 大嘗... 大嘗...
新子夏

大嘗... 大嘗...

身大后... 大文...

五社百首

中... 中... 中...

暮見印花

志... 志... 志...

吹着... 吹着...

最中納言定家

入... 入... 入...

支... 支... 支...

光量院入道二品兼左大臣兼右大臣兼大納言兼右近衛

兼大首三河内守 後二位家隆

兼左近衛少輔兼右近衛少輔兼右中納言兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

兼右近衛少将兼右近衛少将

神子（神子）の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

春日社百首印也 藤原隆祐印也

印也（印也）の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

題不知 後人不知

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

永久元年官月御名を記すに神子の御名を記すに

家後朝也

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

光臺院入道二品就下家五十首社印也

後三位保孝也

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

心三位家也

月

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

法中幸徳也

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

経業法師

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

承安五年二月重家之御名を記すに神子の御名を記すに

良一法師

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

百首印也 慈鎮和尚

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

後二位家隆也

神子の御名を記すに神子の御名を記すに神子の御名を記すに

○神子の御名を記すに神子の御名を記すに

神子の御名を記すに

神子の御名を記すに

神子の御名を記すに

神子の御名を記すに

神子の御名を記すに

神子の御名を記すに

神子の御名を記すに

浪後

古河の内大臣家十首合為一首

兼蓮法師

卯卯天のさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

承久二通の季首首 兼仲納言定家

千段のうまのさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

伴昌政十首

千乃心也まゝのさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

弘長元年百首卯也 氏部公為家

さつきころころとさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

心階入のたまたま百首卯也

三乃心也まゝのさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

文應元年七社百首卯也

ふたむすぶ玉川乃里のさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

とるんころころとさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

家且十首卯也 定基位入通二首又

とるんころころとさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

弘安元年百首 後九条内大臣

とるんころころとさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

承久四年六月の御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

大藏の御まはらひ

とるんころころとさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

田家卯也とさびしき御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

小田の御まはらひにせめてふたむすぶ玉川乃里

弘安二年暮根官五首

安永の辰巳茶

時一々も此茶を飲むは其の味は二杯に於て其の味は
百首寺の御経家 其の味は師

中もその味は其の味は其の味は其の味は其の味は
文治の百首 其の味は師

あつたも其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は
一の百首寺

心平寺の此茶は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は
天仁元年師時之末寺の合印也

有厚敷隆

其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は
隆源法師

同

枝とに牛馬は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は

永文元年九月三日合印也

法性寺入道用良経流

其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は

建永八年百首寺合 信実朝臣

其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は
洞院橋段中百首寺郭云

薄徳の院祖云

其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は

同 常盤井入道大政大臣

其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は

建保三年因大寺七の百首寺郭云

此の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は
其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は
其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は
其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は其の味は

後三任家傳

くはもあつて家傳のふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

くはもあつて家傳のふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

○神奈

正治二年百首

小侍伝

目録のいふはたのふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

百首神奈

衣笠内大長

神奈のいふはたのふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

六帖題

正三位定家

神奈のいふはたのふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

三二

信實抄

ちあつて家傳のふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

六帖題

指傳正之

ちあつて家傳のふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

家集神奈

曰

ちあつて家傳のふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

菘 葵

百首百首

順徳院御製

ちあつて家傳のふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

あひ

まのあひ

ちあつて家傳のふくむ事のいふ事なるはあま
く
題す

光基後入の二宗新の家平首

後二位家隆

下はらふよりのふりくらくらしきひまはあふみのけしき

之の影ももへた極め影の影

前大納言資季の

神まつらふのふりかたのけしきつとらふさよひけて我の

菱

中条所光朝

世乃るふのけしきまのふりくらくらしきふりくらしきふりくらしき

永方二年丑月經成の合月

清実朝

あふむのふりくらくらしきまのふりくらくらしきふりくらしき

清集菱

中務の代

うらむけのふりくらくらしきまのふりくらくらしきふりくらしき

家集

貫之

人々ふりくらくらしきまのふりくらくらしきふりくらしき

経信の家集

六条太夫

あふむのふりくらくらしきまのふりくらくらしきふりくらしき

三年の三月冬の日まのふりくらくらしきふりくらしき

人々ふりくらくらしきまのふりくらくらしきふりくらしき

堀河後内侍百首菱

仲實朝

神あふむのふりくらくらしきまのふりくらくらしきふりくらしき

家集

周防内侍

あふむのふりくらくらしきまのふりくらくらしきふりくらしき

けしき後内侍右尾まのふりくらくらしきふりくらしき

延寶職公家書

正徳

此書

此書

平祐舉

家集

平祐舉

長久二年二月七日
長久二年二月七日
長久二年二月七日
長久二年二月七日

源賴實

久安百首
久安百首
久安百首
久安百首

韻字百首
韻字百首
韻字百首
韻字百首

玉風卷

前中納言定家

文治六年
文治六年
文治六年
文治六年

葵付

三條入道大炊

寛永元年
寛永元年
寛永元年
寛永元年

簾懸葵

西園寺入道大炊

同

氏部

同

恒二他家

文應元年
文應元年
文應元年
文應元年

文應元年
文應元年
文應元年
文應元年

文應元年
文應元年
文應元年
文應元年

い海に... 文永九年五月廿五日

氏... 信實朝臣

六帖題

○五月五日

天長八年丙申...

貫之

家集... 惠云法師

家集... 傳教朝臣

家集五月廿五日

家集... 源仲心

家集騎射心

源仲心

六帖題

衣笠内大臣

氏... 氏部... 氏部...

千五百番三合

本行内大臣

氏... 氏部...

かきあつるものよもみちりこしうまとして新の文もほはらあはらる
まことの中坊川院は時百首

大納言仲頼

日影よわらわあひらうららうらむる月影のまにまに
建長八年百首の今七箇中將忠基
いちちのうららのうららひんがけしてのむし神楽

月

後三位頼家

あひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
物何院は時百首 信賴頼家

うすれいせうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
山家古着葵蔵光隆

山家古着葵蔵光隆

信仲

おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

賀茂卷

六百番の合賀茂卷 後京極攝政

おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

月

前中納言定家

風後

おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

大蔵卿有家

月

後鎮和尚

おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
おもひはらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

後三位家隆

神宮言本

あはれなる神宮言本

隆信朝片

あはれなる神宮言本

前大納言兼家朝

あはれなる神宮言本

中文精大史家朝片

あはれなる神宮言本

日事や判志云云奇は海いひなるはるる

物も見おせし一あはれなるはるる

い乃事子物せし一あはれなるはるる

永久四年百有廿九卷

徳意昌

文今なる一て如らあはれなるはるる

後頼朝片

いさづきなるはるる

後人不知

いさづきなるはるる

衣笠内大片

いさづきなるはるる

信安朝片

いさづきなるはるる

氏部之為家朝

いさづきなるはるる

中文私筆出

五立

六二

散水

言先

衣笠内大片

信安朝片

月

氏部之為家朝

此のまじりの中申分の目におぼしひく

順

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

家集 西行上人

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

仲実和尙

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

早苗

文治六年社日苗

身大后高大夫後成

已出

中長光の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

伯耆社早苗 後二位家隆

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

西行上人

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

伯耆百首早苗 慈鎮和尙

家集家集の目におぼしひく申分の目におぼしひく申分

承久二年早苗 和也五首早苗多

前中納言定家

うらむしとらふのむらじまにむらじまのむらじま

文治五年百首早苗

同

後まきしじろのてやとせむひよるむらじまのむらじま
畠倉入道松政の百首採早苗

氏部公家

小田原のむらじまのむらじま
嘉元六年式部頼家績千首早苗多

赤坂の相

頼朝のむらじまのむらじま
中務少輔定家百首早苗

狩場公家

日とくつらむらじまのむらじま
永承六年九月五日殿上根合早苗

或部大播磨

むらじまのむらじまのむらじま
家百首早苗

氏部公家

ふたばのむらじまのむらじま
千首早苗

同

むらじまのむらじまのむらじま
女恋えむらじま百首

同

ふらむらじまのむらじまのむらじま
百首早苗

同

むらじまのむらじまのむらじま
むらじまのむらじまのむらじま

文永二年 毎日一首中 同

小田原の寺にありては 同 (5)

又 同 (5)

字 同 (5)

文永十年 毎日一首中 同 (5)

家集

隆信朝臣

家集

後二位朝臣

月

老翁五十首奇合

栞本新集百首

里人の 同 (5)

寶作二首百首早苗

永久元年 同 (5)

修理大進頭書

建永八年百首奇合

正二位忠朝

建永八年百首奇合

正二位忠朝

建永八年百首奇合

正二位忠朝

建永八年百首奇合

正二位忠朝

海軍少佐の御書

六帖題

三信の家

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

月

信之家

寛元元年十月御書

月

信之家

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

信之家

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

信之家

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

寛元元年十月御書

家集

人丸

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

三百字首中

好忠

ふあさきくかきかきとくまふにむらさきなるらるる
るり

家集

通信帖

いしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

早苗三首

仲実帖

いしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

家集

後頼朝帖

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

権河院印首

月

修明大夫頭孝

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

月

隆源帖

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

頭孝の家三首

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

月

後人不知

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

久安百首

実徳朝帖

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

先皇院入道二品親王五十字首早苗文

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

泰成雅經帖

あすゝわいのあふのいしり神はさかえとくまふにむらさきなるらるる
るり

るり

建長八年正月合 之後朝臣

一平一田の事なりしもむりもたまりし時あり

嘉元二年十月高府百首

後三三三 佐土佐為久

三平あはれなる人なる事なりしもむりもたまりし時あり

西洛二年百首 本陣内大臣

はたしおたる人なる事なりしもむりもたまりし時あり

永久二年正月鳥羽殿合早苗

久茂之御宗

ふたつかりし事なりしもむりもたまりし時あり

右京大夫頭捕

色少くし田の事なりしもむりもたまりし時あり

長久三年正月土師の七次合早苗

重成朝臣

かまきりし事なりしもむりもたまりし時あり

家集百首 惠慶法師

しんあきし事なりしもむりもたまりし時あり

家集百首 源仲心

雲のなる事なりしもむりもたまりし時あり

常盤百首 田早苗

かまきりし事なりしもむりもたまりし時あり

家集早苗 源朝臣

ふたつかりし事なりしもむりもたまりし時あり

堀河院合早苗 赤守納言進房

おのころのむらさき... 寶治二年百首早苗 正三位知家

ふたばのむらさき... 長生内大臣

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

ふたばのむらさき... 後鳥羽院

新古
再録
正三位知家
長生内大臣
後鳥羽院

正三位香緒

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

ふたばのむらさき... 隆信朝臣

13

百毒二の五月廿日我忠紙片家言の合言中

草蒲

後人不知

吾少ころおてそひくあめあちとあまかきん千りあまか
けの判老云九節乃草蒲のけころ若の肉の云
の上二年こと今日人あちつ草蒲の好く
すりとすむいその火りころあちとあまか
たのきすむいその火りころあちとあまか
あまかすむいその火りころあちとあまか

同の合蘭中蒲蓬 曰

らりももあちとあまかきん千りあまかその
そのころあちとあまかきん千りあまか
あまかきん千りあまかきん千りあまか

判老言の合言中蒲蓬にのりあまかきん千りあまか

あまかきん千りあまかきん千りあまか
あまかきん千りあまかきん千りあまか
あまかきん千りあまかきん千りあまか

あまかきん千りあまかきん千りあまか

康和二年五月廿日付文紙片家言の合

堀河院中又上総

あまかきん千りあまかきん千りあまか

曰 有忠又威

らりあまかきん千りあまかきん千りあまか
あまかきん千りあまかきん千りあまか
あまかきん千りあまかきん千りあまか

家集草蒲

水きくはらひたれなういふあやめさるあまのりてまきり

曰

巻後

五月ひくはらえよあつあやめ草のまの孫とらひて

老若五十有言合

後宮御極政

あひさりの神のあやめかきまて枕もあまをいしよ

津集草蒲と

法性入通開白

まはら金いふいふあやめさるあまのりてまきり

久安百首

孝通朝臣

あやめさるあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

曰

上院集

あやめさるあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

承久三年宣孝百首曉

兼中納言定家

あやめさるあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

六字五韻工の周扇指忘晨月織

玉乃のらさるあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

家集

俊頼朝臣

あやめさるあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

三つ

トア意出

あやめさるあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

中務の執事家言合 指傳正朝

いしまえらあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

家集さるあまのりてまきりあやめさるあまのりてまきり

おのりあひく人しり申おひるまうはくまは海はあふ

貞應三年百首伝多草蒲

つくも入入のおまのあや草の五月のあやある人

五社百首

貞應三年百首伝多草蒲

こころあひくまのあまのあやあひるまはさあお

能波合のまのあやあはれはるるるるるるるるる

あふまもりあふまもりあふまもりあふまもりあふ

大嘗會悠記方古屏風

あふ海の池のあやあはれはるるるるるるるるる

古集十首伝多草蒲

後鳥羽院法製

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

家集惠三の申

後二位家隆の

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

文治六年女侍入向古屏風

後徳大寺大夫

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

寄草蒲祝

承議為相の

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

貞應三年百首古池草蒲

氏部公為家の

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

家集

光後朝の

和の詩集の入り口から一冊の巻末まで一冊としてよむ

二冊の續古今入撰者より後より

徳金中書と清金より高蒲とあるところ

家集の中高蒲 源仲正

あめあひくも志のしんらてくまのしんら

伯耆社三十首 後二位家隆

すものよもはまのあめあひくも

百首正の 慈鎮和尚

この文のあめあひくも

あめあひくも

西の 西の上人

あめあひくも

けり家集のあめあひくも

あめあひくも

あめあひくも

西の百首 西三位季隆

あめあひくも

文應元年七社百首 氏部公家

あめあひくも

あめあひくも

建保三年百首正

順徳院御製

あめあひくも

西の 後三位家隆

又月夜よりのおぼろけの光を
かきとらふはさかしのひかり

後三位知家

且月夜よりのおぼろけの光を
かきとらふはさかしのひかり

貞應三子高房百首若下葛藤

氏部の七首

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

六帖題

信実朝臣

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

前中納言定家

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

毎日一首中高藤と
氏部の七首

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

百首題

大藏隆持の博

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

衣笠内大臣

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

橋

題本知

中納言家持

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

後二位家隆

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

野跡の七首
後二位家隆

あぢるあぢるの光を
かきとらふはさかしのひかり

建保四年自合

Wesley

家集夜中

おのれをたもたむるにほろひのちかき人々も
影す

きりぎりすのむらさきもかきこゝろ
かこむはらけのむらさきもかきこゝろ

月

三方はな

橋のしほりもさかきもかきこゝろ

月

藤原東朝片

志保のしほりもさかきもかきこゝろ

長奇

中納言家持

志保のしほりもさかきもかきこゝろ

志保のしほりもさかきもかきこゝろ

志保のしほりもさかきもかきこゝろ

題

人麿

風はらけのしほりもさかきもかきこゝろ

古部廣方

披のしほりもさかきもかきこゝろ

侍賢門院安藤

丘のしほりもさかきもかきこゝろ

平社舉

やまのしほりもさかきもかきこゝろ

家集早首

少年

つやのしほりもさかきもかきこゝろ

百首奇

殿守侍大梅

〇二版
君がまゝ
心もまゝ
金計け

假宿門院大輔

中... 殷富の院人女補のまませけり奇

指中細言長方

百首の言の盧橘子位山取重

慈能和尚

康元二年毎月一首中

氏部公家

橋とこりものりか... 百首奇用板

光俊朝臣

古帖題

信實朝臣

少... 西河院古時百首板 顯仲朝臣

俊賴朝臣

百首の... 光俊朝臣

小野社百首板 俊成朝臣

百首の... 長益朝臣

百首の... 長益朝臣

百首正の

同

新撰

あはれおくれのあはれを又何まよひす此歌のま
千五百番奇合 前大納言忠良

守りたれおひしうらら神まきり女あやめ神をり

身大店を夫文俊成

新撰 月 守りたれおひしうらら神まきり女あやめ神をり

百集

押中内大臣

吹風より神のやちりふんてつろろ十朝のころを

十題百首正の

後高橋格取

ゆきよりの神のやちりふんてつろろ十朝のころを

嘉元三年百首正の

盧橋

慈山院法親

りよきすまのつら神まきり女あやめ神をり

正治三年百首

後高橋格取

たらたあれおくれのあはれを又何まよひす此歌のま

百首

年蓮法師

折らりたれおくれのあはれを又何まよひす此歌のま

千五百番奇合

後二位家隆

折端より月ひあはれを又何まよひす此歌のま

又自郭とてあやめ

あはれおくれのあはれを又何まよひす此歌のま

之其もは入道二品親王家五十首夜盧橋

知願法師

少きよめおくれのあはれを又何まよひす此歌のま

又意元七社百首 氏部とて為家

ひりりえいよまをけいんたを橋の事なり

橋の事なり神の事なり

又月まるとればたの事なり

神の事なり

うてまきしひりりえいよまをけいんたを橋の事なり

百首古言の事なり

吹風は昔の事なり

寛元三年結縁經百首の事なり

氏部は家なり

かむまの事なり

建保三年の家百首の事なり

入道橋政之の事なり

橋の事なり

同

千五百番の事なり

中務の事なり

大苑の事なり

百首の事なり

悪鎮和尚の事なり

或人の家なり

大宰大貳高直の事なり

梅の事なり

家集

好意

ふすまのまゝにりて...
備 備子内親の家言合花梅

小竹堤

なつこきるもる改はたれ...
嘉保三年五月家言合盧橋

後人

けしあけてたまらぬ...
天仁三年四月仰付の家言合部云

仲実郎

さしあけの...
心部

備子内親の家言合梅

潜皮

いほよくとれらむ...
百首言里盧橋

隆祐朝臣

おひやうび...
文治六年五月社百首梅

身大后言大女後成

いほよくとれらむ...
六帖題おる梅

衣笠内大臣

いほよくとれらむ...
信實朝臣

信實朝臣

あふくにやふあな梅^{つらね}あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

花柑子

百首清奇中夏

慈鎮和尙

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

〇四三十一
長一

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて
あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて
あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて
あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて
あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

部云

部云

部云

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

あふくにやふあな梅あな^{つらね}のうら^{つらね}かみ^{つらね}月^{つらね}はて

夫木和歌抄卷第八

夏部二

題

郭公

五月雨

照射

麦

牡丹

標棟

百合

鴨河

水鷄

螢

夏神樂

夏雜

郭公

家集

大納言經信

竹内郭公

天仁三年三月師討

信賴朝臣

千五百番

醍醐入道

正治二年

大納言忠良

又月夜

千五百番奇合

家長御札

當れいりわろの雲海もはらわつ時のももなり

同

心三位季純

郭云からいそむきい年の花乃かき将うろく高松

也家集郭云

而の上人

寫の少くともいふたきいあわもこの家集

心作二首

年蓮法師

ういこの少くともいふたきいあわもこの家集

建仁元年

蓮法師

るあなほらたれうまむらて寫法の小鷗野

かきまはらひや出る世の神をまともいふ

心作二首

或子内親

由りてやうすたきいあわもこの家集

家集

純宣御札

かきまはらひや出る世の神をまともいふ

心作二首

前中納言為意

かきまはらひや出る世の神をまともいふ

家集

後惠法師

郭云の神をまともいふ

家集

心作二首

かきまはらひや出る世の神をまともいふ

家集

徳雅重御札

伏見院

心作二首

家集

同

家集

三才抄
しきほろひの極人又月心所の花はすまふのさあ

歌集

赤人

万平
つくりあはれ少の良成のきほろの花はまき成る久

題不知

中細言家持

万平
その花もゆくさかひひらきしき平のまは山

題不知

讀人不知

万平
なふるのそらにたもほとてやじのわ

題不知

蟲磨

万平
ほくそ科より抱きりせの勢云いこのまの

洞院栲波歌百首歌云

後三条内大臣

ほくそ科より抱きりせの勢云花らと取の多しあそん

文治三年用居百首 前中納言定家云

あはれよ風わかきかひのうらふはすいひまはれつた

同部云いせ

光孝院入道三忠の文云

るあそもいかにいひまはれあふれまきほろく宿の位

前元三年百首歌云

赤儀為相云

あつともし橋余のこよあはれをいひてわ部云

貞應三年百首遠部云

民部云いせ

神皇正統記のあそもいかにいひまはれあふれまきほろく宿の位

寶治二年百首待時云

正三位定家云

かきまはるまのたのしみし金まはるまのたのしみ
題不記 志貴身子

神楽のたのしみし金まはるまのたのしみ
川 後人

そのたのしみし金まはるまのたのしみ
川 後人

平 神楽のたのしみし金まはるまのたのしみ
川 後人

平 神楽のたのしみし金まはるまのたのしみ
川 後人

神楽のたのしみし金まはるまのたのしみ
川 後人

久安百首 清持御作

中納言家持御作

入道前太政大臣御作

後任家持御作

千五百首奇合

一とていふたはるまのたのしみし金まはるまのたのしみ

三百六十箇中

好集

たゞまじりあつたては

五百番の合

大蔵の有家

たゞまじりあつたては

同

赤旗雅經

たゞまじりあつたては

天仁三年六月仲時家と合部云

琳賢法師

たゞまじりあつたては

建保三年内大臣家百有

前中納言定家

たゞまじりあつたては

同

有厚有季の合

たゞまじりあつたては

洞院攝政家百有部云

光俊朝臣

たゞまじりあつたては

社家部云

大宮大臣の合

たゞまじりあつたては

同

後人云

たゞまじりあつたては

光孝院入道二君の合部云

信実朝臣

たゞまじりあつたては

長門の長門守
りかへりあつたては
りかへりあつたては
りかへりあつたては

好集

同

有原孝純

たまにのたまに此の部を申し下すするる

月

は平光寛

侍人をかこつてなすすいり志のいれり

月

後祥法師

なすきいり又日かこつてのいれり

永正二年市邊家寺合部云

有原頼保

をいり志のいれりなすすいり

古帖是

正三位知家云

なすすいり志のいれりなすすいり

百首の中へ説 法印の宗

余

五月十日志のいれりなすすいり

元永元年正月申後入通女長官合部云

後醍醐天皇御幸云

五月十日志のいれりなすすいり

保女二年閏五月賜た大長官實七郎合

郭云 有原為忠云

まじりしりなすすいりなすすいり

弘長元年百首 後九条内大臣

月十日志のいれりなすすいり

寶治二年百首同郭云

ちりしりなすすいりなすすいり

洞院格政史百首 光明寺入通格政

あまのさかき... 持僧云云

今も... 結實朝也

... 二年... 家集

... 殿上會部云 濃伴云

... 部云

夏衣... 夏衣

小弁

... 元音

... 小念心の部云 大納言経信云

... 正治二年百首

... 畏屋今存格致也百首部云

... 氏部云

... 人丸

平家集

平家集 中納言基持

家集

中納言基持

和の花のほろけり 伊勢集

和の花のほろけり

中納言基持

なまけりけり 中納言基持

中納言基持

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ 中納言基持

家集

光俊基持

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ 中納言基持

あまのこころ

あまのこころ 中納言基持

百首正音

後九条内大臣

月影のほろひのさきもあまきけりわづらひのさき
家集名山歌云 修徳大夫歌集

夕花のほろひのさきもあまきけりわづらひのさき
海鏡歌云

今日もあまきけりわづらひのさきもあまきけりわづらひのさき
家集 西の上人

かきまはるまじりなほあまきけりわづらひのさき
題不知 有厚風房

郭といふまじりなほあまきけりわづらひのさき
仁和元年行年記の合歌云 後人不知

庚子時より新勅撰後
藤原公純の撰
郭といふ也

あまきけりわづらひのさきもあまきけりわづらひのさき
永万二年中世の合歌云

法橋影照

あまきけりわづらひのさきもあまきけりわづらひのさき
保安二色同舟月贈たは長實家云合歌

徳昌

あまきけりわづらひのさきもあまきけりわづらひのさき
月 神祇伯歌仲云

あまきけりわづらひのさきもあまきけりわづらひのさき
月 有厚風房

郭といふまじりなほあまきけりわづらひのさき

承安二年の春、長安の合境郭云

清博紙片

赤藤元

月をのりて、赤藤元の事なりと云ふは、赤藤元の事なりと云ふは、

千五百番の合 宜科の役母後

新藤原

新藤原の事なりと云ふは、新藤原の事なりと云ふは、

寛治二年百番 或子内親王

且指反

且指反の事なりと云ふは、且指反の事なりと云ふは、

同 隆信朝臣

郭なるに、隆信朝臣の事なりと云ふは、隆信朝臣の事なりと云ふは、

同 長多院入道三善大夫

長多院入道三善大夫の事なりと云ふは、長多院入道三善大夫の事なりと云ふは、

四集 後三条内大臣

夏、後三条内大臣の事なりと云ふは、後三条内大臣の事なりと云ふは、

赤井権左衛門 後二位赤井権左

赤井権左衛門の事なりと云ふは、赤井権左衛門の事なりと云ふは、

建保三年八月廿七日百番 社那云

新藤原

建保三年八月廿七日百番の事なりと云ふは、建保三年八月廿七日百番の事なりと云ふは、

寛治八年八月廿七日百番 合郭云

寛治八年八月廿七日百番の事なりと云ふは、寛治八年八月廿七日百番の事なりと云ふは、

指中納言通俊云

後二位朝臣

後二位朝臣の事なりと云ふは、後二位朝臣の事なりと云ふは、

郭云 後三条内大臣

郭云 後三条内大臣

赤井権左衛門
赤井権左衛門
赤井権左衛門
赤井権左衛門

その御本は... 仁和元年...

仁和元年行平... 合部云

高... 仁和元年... 合部云

永安二... 合部云

道同法行

時... 法橋頭帖

同

和... 仁和元年...

仁和判者... 仁和元年...

又... 仁和元年...

千五百番寺合 具林院丹校

仁和元年... 仁和元年...

百着... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

仁和元年... 仁和元年...

神の御心... 御心... 御心... 御心...

光景院入道二十首 歌五首 畏部

後二位 歌

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

定集時鳥 後彩鳥

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

歌五首 畏部

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

歌五首 畏部

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

歌五首 畏部

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

又女百首 前奉儀 規隆

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

歌集深山 同部 指大納言 實盛

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

馬上同部

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

老若五十首 合 慈徳和尚

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

後宮 同部

後宮 同部

あつらひ... 御心... 御心... 御心...

千五百番五合

予らわらむのこころはまじしものこころは

名所部云

後九条内太

しんすまふのこころはまじしものこころは

浄集

鏡金太夫

五月の日のかたはまじしものこころは

部まじしものこころはまじしものこころは

かたはまじしものこころはまじしものこころは

六帖題

心三位家

かたはまじしものこころはまじしものこころは

家集

あの上人

かたはまじしものこころはまじしものこころは

家集文永元年の若部云

行傳公朝

かたはまじしものこころはまじしものこころは

建保三年内太

信實朝臣

かたはまじしものこころはまじしものこころは

承久元年内裏の合交院更

お大納言伊年

かたはまじしものこころはまじしものこころは

百着の

順徳院御製

かたはまじしものこころはまじしものこころは

浄集方未定

後九条内太

まはせしむる事にして... 後多岐氏の... 三右衛門部云

久保山... 長女院入道... 中務の文

○元文十三... 氏部云

嘉禄二年百首 氏部云

久保山... 同イ... 弘長三年... 後三行也

ま... 同イ... 氏部云

玉友 近同部云 身太后之天女後成

文應元年七社百首 氏部云

孫千友 正治二年百首 兼中納言定家

建保三年百首 同イ

月... 氏部云

郭... 氏部云

新後抄及... 氏部云

由つかに建すべしと云ふはまはらへともてはたかひに
待野ら流

郭三の中

後頼朝也

時よりつゝとていふたら井よして建すべしと云ふは命に
西園寺入道大僧正の御首

後二任家隆也

ちりとの衣はせしむるはまはらへともてはたかひに
中務右衛門少輔五十五首の合

指僧正の御首

かゝるはたかひにまはらへともてはたかひに
判者 光俊の御首 之と云ふは鳥を一目中記
鳥を一目中記と云ふは鳥を一目中記と云ふは
らへともてはたかひに

建保三年右首首 知家也

かゝるはたかひにまはらへともてはたかひに

月

行経也

かゝるはたかひにまはらへともてはたかひに
郭三の中

権金右大僧

ちりとの衣はせしむるはまはらへともてはたかひに
その好むはたかひにまはらへともてはたかひに

建保三の内大僧首首 郭也

大僧正有宗也

かゝるはたかひにまはらへともてはたかひに
千五百首首合

法橋師昭

今にしてはたかひにまはらへともてはたかひに
新次郎

くまのよまゝにせ給けらむ

後鳥羽院御製

園にそよよそよよまき一郭にありまよひをまき

夏年中

後頭園御製

まきらふまきらふまきらふまきらふまきらふまきらふ

文治三年百首

前中納言定家

ふきんふきんふきんふきんふきんふきんふきんふきん

承久三年百首

しんじしんじしんじしんじしんじしんじしんじしんじ

院出者よて郭云

後鳥羽院

ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

建保二年三月屏風等

後千

又月白くはれすまきらふまきらふまきらふまきらふ

秀徳とてけら百首

まきらふまきらふまきらふまきらふまきらふまきらふ

承久元年の内裏の書院郭云

かきまきらふまきらふまきらふまきらふまきらふ

女首奇野郭云

まきらふまきらふまきらふまきらふまきらふまきらふ

寂勝実天正院右内侍

郭云まきらふまきらふまきらふまきらふまきらふ

中務郭云

中務の女

時毛の女首のたふれ郭云まきらふまきらふまきらふ

建保二年内裏十首奇合

の伊勢物語
の伊勢物語
の伊勢物語

後二位行純

時より... 家五十有里時多

家五十有里時多

色少く... 法下定範

法下定範

後二位範家

洞院格... 後北条内大臣

洞院格政

後北条内大臣

家五十有里... 家五十有里

家五十有里

正三位家範

好... 年念法行

年念法行

伯古... 善法和尚

善法和尚

す... 永享二年

永享二年

大宰大貳市家

大宰大貳市家

永享二年

永享二年

題本

人丸

五百部

は古

信濃の国をわたりて都をまわるとも

千五百番手合

後三位保孝子

都をわたりて都をまわるとも

月

水侍候

大の心をまわりの心と

心をまわりの心と

文應元年七月

氏部

かきとく

前大僧正徳惠泉障子繪

赤紙

かきとく

書急百首中

心算

海客宿次鏡百首

月

百首

後部

心算

題

泥重方

人家

月

和徳

心算

同

心算

口説本
綱目録
心算
心算
心算
心算

保安二年同月家三の合部云

贈大内長實云

時多し建くまるといふともなすまらざるまのた

弘安二年首根文百首郭云

安政院四条

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

文永二年七月白河殿百首渡郭云

光後御片

あまらかたす漕舟のりよふこまらまらまらまら

保安二年同月婿大内家三の合部云

源経頼御片

あまらや不破の言のあまらあまらあまらあまら

洞院橋政家百首 恒三位の経

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

結縁經百首 少内侍

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

光の華寺入道橋政家七首三の合部云

後三位頼氏云

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

家尊 修理大友頼季云

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

和禎二首十首三の合部云

後大内政大内

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

日

隆祐朝片

志すまのやまのすまのたすきたるまのまのま
仙洞の首の河を執云

少将内侍

部之妻のさひり君のいさしおまきのあはれは

用時さひり君の 前右兵衛督の教

るけのまのしかりさる部之君のあはれの用は

家集兩中 部之 修理大夫朝香

且ぬまのまのさひり君のいさしおまきのあはれは

中院入道大夫家之合部云

神祇伯朝臣

部之のまのさひり君のいさしおまきのあはれは

立祐の先
題不知

讀人不知

かつおのちねのさひり君のいさしおまきのあはれは

杜部云 平範忠朝片

石向
友衣のさひり君のいさしおまきのあはれは

心部云 法中因勇 弟

家まのさひり君のいさしおまきのあはれは

且月のすまのあの人

結宣朝片

いさしおまきのあはれは

内裏の部之のつとて連奇

かまのさひり君のいさしおまきのあはれは

うはらまのいさしおまきのあはれは

通信朝片

新編今昔物語
いさしおまきのあはれは
いさしおまきのあはれは
いさしおまきのあはれは

源朝片
いさしおまきのあはれは

○五月女

千五百番三合

皇太后宮大女御

長秋

はすき五月女とてまことあまのたまを

百首はりの

中務の女（官尊親王女）

水まじりあまのつせり青女よままもあまの

月

慈徳和尚

五月女のままのつせりあまのつせりあまの

家集河五月女

信實朝臣

五月女のつせりあまのつせりあまのつせり

家集五月女

あの上人

五月女のつせりあまのつせりあまのつせり

唐船のつせりあまのつせりあまのつせり

あまのつせりあまのつせりあまのつせり
あまのつせりあまのつせりあまのつせり
あまのつせりあまのつせりあまのつせり

月

後杉朝臣

あまのつせりあまのつせりあまのつせり

月

好忠

あまのつせりあまのつせりあまのつせり

千五百番三合

土御門内大臣

あまのつせりあまのつせりあまのつせり

月

前中納言定家

あまのつせりあまのつせりあまのつせり

月

後二位家隆

又月毎の抄の事... 一冊の事... 多

六月帖題 三鹿 長生内大臣

治承二年大内家百首五月雨 後意格格致

五月毎の志の事... 延仁元年老若五十首奇合

又月毎の事... 洞院格致家百首五月雨

後九年内大臣 後三位行徳

又月毎の事... 信實朝臣

又月毎の事... 慈徳和尚

又月毎の事... 百首五月雨

又月毎の事... 家集山家五月雨

又月毎の事... 百首五月雨

又月毎の事... 百首五月雨

又月毎の事... 百首五月雨

余儀為相

新撰抄

凡そていつてあることありて其のつとむるに五月あり

乾元二年二月五日あり

同日

日ひさね軒集よりありて其のつとむるに五月あり

若くは其の合

前中納言為意

五月ありて其のつとむるに五月あり

和元二年仙洞三十有五日あり

後三位為實

五月ありて其のつとむるに五月あり

この五日あり

大蔵之行家

皇

五月ありて其のつとむるに五月あり

清集の五月あり

後九条内大臣

皇下死

五月ありて其のつとむるに五月あり

長女院入道二お扱ひせり五十有

大蔵之有家

五月ありて其のつとむるに五月あり

正治二年百有

後三位家隆

五月ありて其のつとむるに五月あり

十是百有清守

後京極松政

五月ありて其のつとむるに五月あり

五月ありて其のつとむるに五月あり

後二位家隆

五月ありて其のつとむるに五月あり

五月ありて其のつとむるに五月あり

永元二年五月経國の家三の合

新撰抄

の品及川日あり
白三夜陰
正徳元子春のま
柳屋に在り
はるるの川井
のちかき
ははるるに
はるるに
はるるに

五月五日の柳のすき
有る資隆の作
蓮生は所へ十笑よ
氏部は為家
又月あまのまき
資隆家子合五月

資隆家子合五月

後成

正治二年百首
同

治承二年百首
同

正治三年百首
同

正治四年百首
同

月

前大納言隆房

六月題五月
心三位

長女院入道二品
長女院入道二品

前中納言

洞院格及家百首
洞院格及家百首

御集

後宮格及

西中野
西中野
西中野

橋のゆりひしすまよるいんはく心部をたうりて

百首の五月多と 系議雅経心

かどかんしちぢりり月来方了物とあててそとて

千五百首奇合 前大納言急家心

ふりぬの雲まきふれといふこの月ひかりの影をた

の人 躬恒

不月多のきそくま時の日影のむらさきもやいさ

家集友志 結同法所

はくしにらくといふあち月多まにといさのるれ

元永元年正月十月中夜入道大信

ちの奇合又月多 友志道経

ゆりくたといふまらりふりぬの影あゆむる

三十三
伊勢国に樂
百首の御歌
五首にそとて
そとてつと
いかに
はく 國信
とて
とて
とて

十首奇 氏部心家心

かきつあまのまのまのいし一葉の心これあまの五月多

あはれぬらふいとてあまのまのまのいし一葉の心

毎日一首の中

上月多のたのまのまのいし一葉の心これあまの五月多

心元二年毎日一首の中

あしつらしてあつたさのまのまのいし一葉の心

文永元年毎日一首の中

これあまのまのまのいし一葉の心これあまの五月多

寛元元年日吉社合に五月雨と

信實抄片

ふりぬの影まきふれといふこの月ひかりの影をた

光徳朝臣家書文河

尾仲遠

明玉 一のけのしんじんのゆめら水

五の中

悪國

まろあまのこころにきりぬら

月

後徳大寺大僧

三三のつゆとりの河をれ柳け

家集

西の上人

水とまことありにたまのけ

月

二条院讃岐

いそのつらぬろのたふ

那智の家三百

光徳朝臣

浪のちやとせやうく

五の中

徳長後朝臣

船もよとくもよ

後九条田大僧

上月のよせき

千五百番

赤城雅經

ふりあいにゆく浪の

亮徳宣天

美治和尙

又月をいひま

千五首番

具親朝臣

松山二
相模部
の國

はのくまわりのまろの青月多よはまことなれきり
家百首空の青月 洞花移改

青月多なるはまろのまろのたはりや
孫子内親の家言合又月多有餘

加へたあつ

五月多なるまろのまろのたはりや
お禄二色日首

氏アつるあつ

五月多なるまろのまろのたはりや
千五百首の合

大納言通具つ

五月多なるまろのまろのたはりや
秋の夜半の月首

正三位孝子経心

見ゆればおぼしき月首の合
天来三の二月首の合

後人不知

ゆりくす又月の夜半の合
天来三の二月首の合

仲實朝臣

あふさく又月の夜半の合
久安百首

花園大寺小大進

又月多なるまろのまろのたはりや
弘安元年百首月多

常服并入道お大政官

あふさく又月の夜半の合
あふさく又月の夜半の合

あふさく又月の夜半の合

あふさく又月の夜半の合

衣多後入道二宗親の家五十四首

法師光

又月夜のまよふまよふなるらむを好らむとてふらふ心は
家集五日後と

源有仲

五日のあつきのそよみかきあひもれはつきの
何れにぞあはれむ

更紗のあま

ふらふらとあまのこころをたそがせしむるは月夜の
そよみ

○照射

百首のう

順徳院の御歌

ふらふらとあまのこころをたそがせしむるは月夜の
そよみ

浄集照射と

法性寺入道用白

あつきのまよふまよふなるらむを好らむとてふらふ心は
家集五日後と

五日のあつきのそよみかきあひもれはつきの
何れにぞあはれむ

ふらふらとあまのこころをたそがせしむるは月夜の
そよみ

あつきのまよふまよふなるらむを好らむとてふらふ心は
家集五日後と

百首のう

重久

あつきのまよふまよふなるらむを好らむとてふらふ心は
家集五日後と

家集五日後と

少弁

あつきのまよふまよふなるらむを好らむとてふらふ心は
家集五日後と

家集五日後と

二条院身太右大臣

あつきのまよふまよふなるらむを好らむとてふらふ心は
家集五日後と

百首のう

六条院宣旨

うらゆきその河原さすはしきるもくも麻字
長久三年九月庚申夜祐子内執事家若所
合長我流好照射 積人之志
しんせいのまをいらむいさの麻のゆりさる所
いさのま

長治元年五月深宗光孝の合心法照射
後賢法師

又月也さくまもあはれさしむる心は神心
月 有念助則

長治二年百首 二条院讚岐

也のこころはしるしあはれはくはのあはれあはれ
家集かゝるあはれ

いづれにわたりてあはれあはれあはれあはれ
家集あはれの中 後二位公隆

いづれにわたりてあはれあはれあはれあはれ
家集あはれの中 後二位公隆
文治六年五社百首照射

自去后交又後成

いづれにわたりてあはれあはれあはれあはれ
家集あはれの中 後二位公隆
いづれにわたりてあはれあはれあはれあはれ
家集あはれの中 後二位公隆

長治二年百首

くわも樂心の病もきりゆるんをいふ事あり

家集終末照射と 神祇伯頭仲と

くわはゆるめ家集をけりてむらじよとけりてくわ

家集 大東大夫殿輔と

あつらたはむらじよにむらじよのむらじよをけりてくわ

津集 法性寺入道前旨と

くわはゆるめ家集をけりてむらじよとけりてくわ

久安百首 有在信補

くわはゆるめ家集をけりてむらじよとけりてくわ

千五百番三の合 赤陽の院越と

あつらたはむらじよにむらじよのむらじよをけりてくわ

百首津奇 慈徳和尚

くわはゆるめ家集をけりてむらじよとけりてくわ

百首の中 後二位家隆と

あつらたはむらじよにむらじよのむらじよをけりてくわ

文治二年百首 前中納言定光と

あつらたはむらじよにむらじよのむらじよをけりてくわ

同 同

くわはゆるめ家集をけりてむらじよとけりてくわ

家集照射と 大納言為氏と

あつらたはむらじよにむらじよのむらじよをけりてくわ

六帖題 光俊卿と

くわはゆるめ家集をけりてむらじよとけりてくわ

千五百番奇合 法橋頭昭

しつとけ麻子あてしひらきい入まはあはらり

堀河院は村百首 仲實朝臣

あひのしをのていひのすくはしはまはらけあり
那季宮の合照射 同

天長元年五月六日大倉七太郎合照射
後人不記

家集十首の照射及境
修理大夫那季

堀河院は村百首 指大納言云實心
一字抄

しつとけ麻子あてしひらきい入まはあはらり
月 後朝朝臣

麦

三百六十首百首 好忠

しつとけ麻子あてしひらきい入まはあはらり
中集 後朝朝臣

みそのま麦の村集をよまてしひらきい入まはあはらり
田家夜雨 清持朝臣

かきしつとけ麻子あてしひらきい入まはあはらり
正治二首百首 指大納言隆房

藤原

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま
六帖題

新三

建長八年百首の合
三位忠定

三位忠定

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま
判者 行基云あきらまの森はあきらまの森とありて
くもほくろまきいれをくすむるまきし人のあきらま
まきいれをくすむるまきし人のあきらま
あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま

百首

後鳥羽院御覽

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま

嘉禄元年百首

氏部公家

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま

六帖題

同

新三

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま

同

信實朝臣

新三

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま

百合

題不知

紀豊河

新三

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま

心活二首百首

後鳥羽院御覽

あきらまきいれをくすむるまきし人のあきらま

月

塩又よまのいそしつたさきもいある及の海茶

心三位経世

まにのまぬらうりもあつるのてん今も

鉄人

夏

人らの色の葉もさるりの花もさるり

夏

はくもさるりの花もさるりの花もさるり

月

夏夏の好の毛乃繁見十用有作曲けいもさるりの花もさるり

坂上亭女

夏夏かりのさ乃繁見十用有作曲きもさるりの花もさるり

家集

源仲心

人をもさるりの花もさるりの花もさるり

永又二年百有友葉 仲實抄片

ふもさるりの花もさるりの花もさるり

百有友葉 古山院法製

夜のもさるりの花もさるりの花もさるり

志人心のまぬらうりもあつるのてん

あの上人

志人心のまぬらうりもあつるのてん

克明あか寺入道あか百有

新島

まのまぬらうりもあつるのてん

抄

六百番子合抄 及高橋橋政

あまのついでに... けりて... 傳之月... あり判之た右人難云國物

大井付心... 定隆

大井付心... けり判... あり... あり判之た右人難云國物

日 中橋橋本...

あ... 日 法橋形昭

千五百番子合 日

あ... 光俊朝臣

抄 衣笠内之

あ... 実為景久

あ... の

家集より

持僧云

とひらふあはるらふらふにかけまゝにけりまのいふを
津集
はけち入る用日

とらふらふ母かりもらふらふらふらふ物と思ひは

同

六条の文

りの家ありとの以の極い母集まらふにけり

正治二年百首

身之居る大ま後集

かりとらふらふのあはるらふらふらふらふらふ

匡房の家を合持川

後人

又この口のらふらふらふ母川母をたなへし

永満 ^{長治} 長治元年八月徳宗克家并合持川

永満 長治元年八月

永満忠基

持河舟らふたなへしとらふらふらふらふらふ

禊子内就家并合持川

禊人不知

かア又またなるのからけらるるらふらふらふらふ

長承三年九月那持卿家の并合持

有在連意

あつらふらふらふらふの事なりとらふらふらふらふ

天治元年二月那持并合持川

後宗は師

長承四年八月からけらるるらふらふらふらふ

行真法師

同

うらまひのつらさの如くかたよはし
良悔は所

大井の少らむとすうらむは
大身居文取版

大集文河
市田記之雅有之

かましく移河とてこゝに
大流行宗也

水月知涼
大流行宗也

移舟さしむる世の麗の又月
大身居文取版

永久軍年百首
大身居文取版

かひのり移舟のつまの志を
神祇伯仲つ

神祇伯仲つ

移舟のつらさの如くかたよはし
入道太政大臣忠告合移川

入道太政大臣忠告合移川

かろ大のいりまはるた
大宰大前高遠也

大宰大前高遠也

かろ大のいりまはるた
後損和片

後損和片

かろ大のいりまはるた
百首百中

かろ大のいりまはるた
百首百中

かろ大のいりまはるた
百首百中

百首百中

かろ大のいりまはるた
百首百中

百首百中

かろ大のいりまはるた
百首百中

かろ大のいりまはるた
百首百中

友舟中

後二位行末

のりせの尾波しんうい舟きしを縁交さす
禊子内親王合鴨川

武蔵

かろ大のけいせきさるま玉川乃あまの舟まのま
川

あまの舟まのま玉川乃あまの舟まのま
承暦元年十月堀河院中官舟合鴨川

仲實御帖

梅津の舟まのま玉川乃あまの舟まのま
玉川の舟まのま玉川乃あまの舟まのま
友舟中

後一条入道御帖

かろ大のいりりさるま玉川乃あまの舟まのま
承暦元年堀河院中官舟合鴨川

徳経御帖

吉野の舟まのま玉川乃あまの舟まのま
長治元年六月匡房の家舟合鴨川

讀人不知

かろ大のいりりさるま玉川乃あまの舟まのま
鴨

白の舟まのま玉川乃あまの舟まのま
延治三年中宮御屏風

貫之

かろ大のいりりさるま玉川乃あまの舟まのま
かろ大のいりりさるま玉川乃あまの舟まのま

長歌

後人志

いづれも時をよきにつけてしむらに
こがれ川のちうせの川のの甲にせに
うたつてきてのうたをききよめりての
うをかつたにうたひせに

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

水鶏

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

（水）

後頼朝臣

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

水鶏

源仲心

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

大僧正行尊

水鶏の三
読みかた
うさつたののぼりせの
うさつたののくちりせの

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

永承六年六月庚申夜祐子内親王が御

水鶏

少弁

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

君臣清哥合

前中納言為意

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

水

建保三年右大臣首領

順徳院の御衣

うさつたののぼりせのうさつたののくちりせの

水

僧正行意

（意）

交じりてのり 持たるる光るのうてわらるるの女持

月

西園寺入道前太政大臣

玉の海にまよひのたふらね新しきて雲舟のかりの心と

月

味蓮法師

風友

いぬの好もりのかたに泣絶くこむいよしの雲より

承久二年宣孝百首 後二位家隆

ひし思ひこむしや雲もきり野もせいのよみ雲の

百首百首

花中納言定家

庭みこむしやまのまらるる雲もや月もさくこむる雲

津集巻

後意持攝政

定ころ育の雲もくまらぬ雲もさるる雲もさるる雲

千五百首百首の合

後鳥羽院文内

玉友

軒志るも月も光るこむしへの庭もはなむしひの雲

百首百首

七尾の院清長

村の雲も石の雲も文とて風吹とこむ雲の交草

月

中務文子

あつたまあつらひの雲もよもむる雲のけしあめ

辛丑韻字百首 尊信人松不知

かり松の雲も雲もあつらひ雲もあつらひ雲もあつらひ

承久二年百首百首

徳兼昌

若村よむし交じりてのり村らしむる雲のあつらひ

長女院入道二品歌とあつらひ百首

前大納言兼家

五月廿一日... 中納言進房

又月廿五日... 出待

二月廿五日... 二條

同日... 衣

同日... 袴

同日... 寶治二年

同日... 建長八年

右近中将

同日... 舟

同日... 牙

同日... 建仁寺

同日... 仁

寂勝宣天皇院后御障子

後我大政大臣

手紙やわらわのあはれおぼゆるに縁の障子に書きたる

家集

鴨七明

わが家よりあはれ書きたるにたゞらば日くまの

建仁三年書合

慈鎮和尚

徳橋

雲ふきのあはれとて書きたるはゆるにたゞらば

交三の中村隆言

大の廣言

里大

わが家よりあはれ書きたるにたゞらば日くまの

家集

心正の家

まよふまゝに書きたるにたゞらば日くまの

家集村々といふもの

社

後二位家隆の

あはれ書きたるにたゞらば日くまの

光基院入道二京就下家集五十首

伊勢の海入りの草の志のいふあはれなるにたゞら

承久二年宣孝百首

家集

甲午のまゝに書きたるにたゞらば日くまの

家集海色巻

清捕朝臣

と後風なるにたゞらば日くまの

題不知

信實朝臣

ひらいてあはれ書きたるにたゞらば日くまの

現存

永仁三年丙寅丑首水色返米

参議為相

又、此の年、粟刈けられたるの米、其の玉成る人
乾元二年仙洞寺合夏カケ 同

又、此の年、粟刈きまらざりて、月ハナ草ハナの玉成り
後、九条内大臣家首有為カ

隆祐朝臣

又、まじりて、この後の作方ハナも、あつた玉成りなり
十稔仰社百首樹下堂

又、此の年、柳少ハナの風ハナか、ハナ抄ハナは、ハナのけ
表、女院入后二、正親正ハナ五十七

隆信朝臣

又、この河を、此の年、まじりて、あつた玉成りなり

何古社百首ハナ 慈徳和尚

又、此の元、此の年、あつた玉成りなり、ハナの松ハナの
文應元年七社百首民部ハナの相ハナ

又、この元、此の年、まじりて、あつた玉成りなり
水河ハナの、まじりて、あつた玉成りなり

又、この元、此の年、まじりて、あつた玉成りなり
河色見ハナの、まじりて、あつた玉成りなり

千首ハナ

又、この元、此の年、まじりて、あつた玉成りなり
文應元年毎日一首中

又、この元、此の年、まじりて、あつた玉成りなり

由のへまじり中へさくまのすく電たひさる
月 有原忠隆

あしよりりそ首はよあわら火かふるも海はぬくも
有原威忠

巴字もすみきりあくるるるあはれらるあわわわ
隆法法師

あつむゆへはさよふくくつらとたしんこふさくろころ
好忠

仲あまのあまのいり火をつらほさきのまの堂なり
大宰大貳高遠

長根の夕殿華と飛思捕枕
あまのあまの恵もきまらだきぬとぢろ堂とらえて

家集なりこくまのまきしん事な
枯拳

あまのいよまのほまきたにとてん恵めいふらふとぬ
亭子院寺合信子月

くはらにらふす堂れしほの火とてあおろむと
結同法師

あまのいよまのほまきたにとてん恵めいふらふとぬ
中務又二

建長八年百有三角合
法平實伴

かげりあひのよきうくれらふらふらるる事しをいふ今あつた
百首の巻大透兼 宗蓮法師

まじりていふまきまられしつゝとてあひまひをいふ
衣集 宗儀の相

はまのうらもいふていふていふていふていふていふていふ
祇園社百首巻 自天后迄大文後成

伊らりあまらぬたにぞおの神の業のわかれなり
百首百首の 衣後入道二首の文

小田の文の巻とていふていふていふていふていふていふ
夏山の中葉大乱形已出 後南極格改

川書よりいふていふていふていふていふていふていふ
後南極格改

秋の巻
三の巻
秋の巻
下巻

月

徳倉七人

かまらぬいふていふていふていふていふていふていふ
衣集巻 前民誌雅有

うらりあまらぬたにぞおの神の業のわかれなり
後九条内本

かきくわや草とにむらとていふていふていふていふていふ
祿子内札の家言合 衣蔵

草志けいほふかろのひりていふていふていふていふていふ
衣とよへの露とていふていふていふていふていふていふ

衣とよへの露とていふていふていふていふていふていふ
正治二年百首 二条河津歌

衣とよへの露とていふていふていふていふていふていふ
衣とよへの露とていふていふていふていふていふていふ

家長抄片

かきつらぬまにしよの漕へり入の堂をそとに
月 法京幸徳

多の坊いんたのしん一ののりかへす一のり
百首の清量 支後朝片

日くむし神のまをさかへりてのりてのりてのり

夏神樂

屏風三のり此夏神樂十のり

順

心いんたのりたのりまあし一のりまのりてのり

天長三年の書に夏神樂

ゆたか

りあのりよのり海の中りあのりあのりあのり
可書百首夏神樂今食

前中納言定家

又のりてのりてのりてのりてのりてのり

心路二のり首着

隆信抄片

いんたのりまのりてのりてのりてのりてのり

家集夏神樂

西の上人

あの子のりあの子のり一何社まににのりあの子

或子のりあの子のり一何社まににのりあの子

いんたのりまのりてのりてのりてのりてのり

家集夏神樂

清徳朝片

河津のりあの子のりあの子のりあの子のり

おまきの丹後守に...
三百年首中

好忠

おまきの丹後守に...
有原長捕すめけろ六首守

有原長

おまきの丹後守に...
三百年首中

好忠

おまきの丹後守に...
正安二年おま首守

系議乃相

おまきの丹後守に...
建保元年首守

前中納言定家

おまきの丹後守に...
おまきの丹後守に...

百首守

順徳院九製

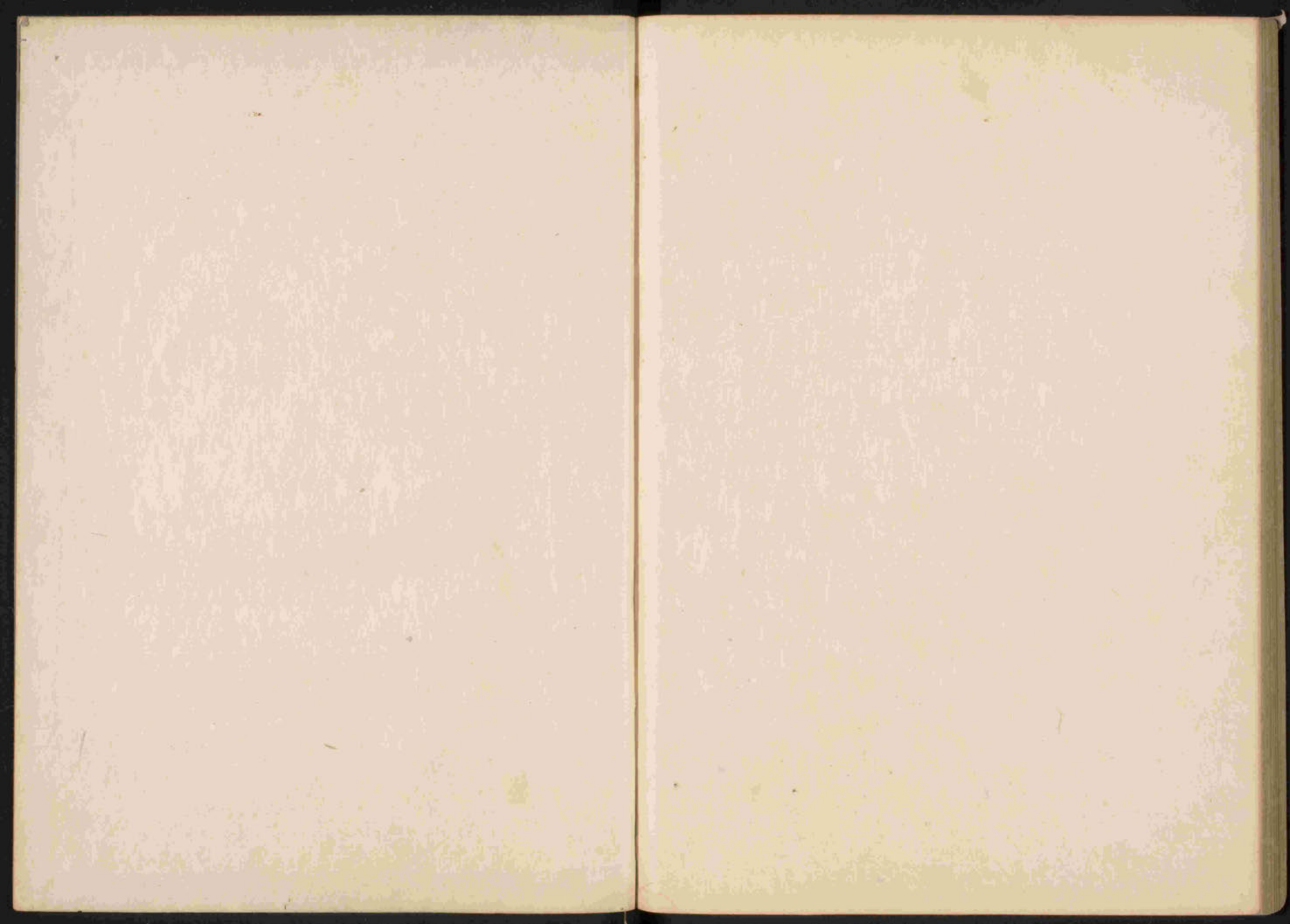
村の首守は...
風はひとつちる玉の首

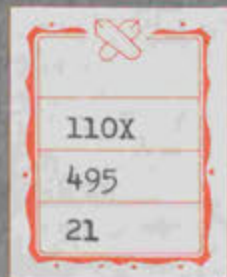
三首

寛永十二年...
百首守

百首守

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The handwriting is dense and fills most of the page. The words are difficult to decipher due to the cursive style and fading, but some legible words include "Dear", "I", "am", "writing", "to", "you", "and", "hope", "you", "are", "well".





110X
495
21